

## 52万研究者へのお願い

近頃、新聞紙上にマルチメディア、情報ハイウェイ、インターネット等という文字が、毎日のように見られるようになって来た。確かに情報化時代に入りつつあるという感じだ。ところで、わが国研究分野でのこれへの対応は如何なものであろうか。将来を考え最も大事なことは何であろうか。

科学技術会議においては、研究情報の流通促進のため、ネットワーク、データベース等の整備の必要性を、これまで繰り返し指摘して来たところであるが、仲々展開の機運が得られなかった。し



かし、米国情報スーパーハイウェイ、その基盤ともなったインターネットの急速な進展等を反映して、漸く関係各方面の関心も高まり、足並を揃え得る環境となって来た。そこで、昨年7月から、研究情報ネットワークに関し、その現状及び今後のあり方について検討を進め、本年6月、総理を議長とする本会議において「研究情報ネットワークに関する当面の進め方について」という報告を行ない、これの整備と利用（アプリケーション）の推進を計ることとした。わが国研究分野での当面の対応策が盛られているものである。

研究情報ネットワークの整備・運用にあたっては、各関係者間の連携・協力の下に、公平、中立、柔軟、安定かつシームレスに推進してゆく必要があり、資金、人材、支援体制等の制度面などで今後特段の努力が払われねばならない。

しかしながら、研究者にとっては、情報ネットを自己のみのための研究に利用する以上に、研究成果のデータベース化のために大いに努力することが、最も大事なことはないかと考えている。情報化の眞の意義は、そのコンテンツを大いに利用することで、世のため、人のために寄与することなのであるから。わが国52万人の研究者の全てが、この努力を行なった時には、画期的な研究社会が生成しているであろう。

科学技術会議議員 大澤 弘 之